

## 2019年3月期第1四半期 機関投資家・アナリスト向け電話会議 質疑応答要旨

日時 : 2018年8月9日 18:00~18:30

回答者: 経営企画ユニット長 西村 泰介

### <Suncorp グループ買収に係る説明要旨>

- 本日のプレスリリースで、オーストラリア子会社 TAL は、Suncorp Life の買収と、Suncorp グループとの販売提携契約を結ぶこと等について、法的拘束力のない基本合意書を締結した旨を開示している。
- Suncorp グループとの 20 年間の販売提携契約により、TAL が有するノウハウに加え Suncorp グループの顧客基盤を活用することができる。Suncorp グループも生保事業の成長を TAL との販売提携により享受することができ、双方にとって win-win の取引となる。
- 当社が発表した買収見込価格 640 百万豪ドルと、Suncorp グループが発表している 725 百万豪ドルの差は、買収対象会社が親会社に配当として支払う余剰資本を含めるか否かの違いである。
- この取引による TAL の収益への貢献は現在精査中だが、買収時に一時的な利益を計上することは想定していない。EV も計算中だが、グループ EV に対して買収直後からプラスに貢献すると想定している。
- 本取引については、グループ内の手持ち資金で対応する想定である。

### <国内生命保険事業>

- Q1:** 第一生命の有価証券売却損が増加しており、見た目の業績進捗を抑えている。外国債券の含み損が減少しているため外国債券で売却損を計上しているようだが、第 1 四半期のキャピタル損は通期の業績に影響するか。
- A1:** 米国の金利上昇に伴い銘柄の入れ替えを行っているものであり、通期の見通しを変える必要があるものではない。
- Q2:** 第一生命の保険引受利益が 2 割程度増加している。要因として、事業費が大きく減少していることがあげられるが、これは一過性とするべきか、業績の上振れと評価してよいか。
- A2:** 事業費は減少して見えるが、まだ年間の 4 分の 1 の期間が終了しただけであり四半期ごとの入り繰りもある。現時点で見込みを変えるものではない。

**Q3:** 国内生保 3 社の新契約年換算保険料が前年同期比 47.8%増加しているが、4~6 月の各月ごとの販売状況はいかがか。また、7 月以降で販売状況に変化はあるか。

**A3:** 月ごとに販売状況に大きな変動はない。また、足元ではいずれの商品・チャンネルにおいても懸念されるような減速は見られていない。

**Q4:** 米国の金利上昇によって、第 2 四半期以降の利息・配当金収入の見通しが改善している等、従前と比べて資産運用計画に変化はあるか。

**A4:** 計画に対してガイダンスに影響を与えるほどの変化はない。

**Q5:** キャピタルゲインの見通しについて、達成の確度は高いのか。見通しに変化はないか。

**A5:** キャピタルゲインの水準は相場の動向によるところが大きいため現時点ではコメントを差し控えさせていただく。

**Q6:** 「エクシード」の販売が減少している理由について教えてほしい。

**A6:** 「エクシード」と同じく経営者向け保険である「ネオ de きぎょう」の販売が増加していることが影響している。

**Q7:** 経営者向けの節税商品に関する報道がなされているが、国内ではどういった商品を販売しているのか。

**A7:** 報道については承知している。当社グループでは、第一生命で「エクシード」、「サクセス」、「マジェスティ」、ネオファースト生命では「ネオ de きぎょう」を販売している。経営者向け保険市場には、経営者の保障ニーズや退職金準備ニーズといった多様な潜在需要があると考えており、今後も機動的に商品開発を行うことで、お客様のニーズにお応えしていきたい。

#### <Suncorp グループ買収について>

**Q8:** TAL による Suncorp グループの生命保険事業買収に伴うグループ修正利益への貢献額ほどの程度になる見通しか。

**A8:** 現在は買収契約等の締結に向けて詳細をつめている段階であり、本件による会計面への影響等については、買収契約等の締結後に精査する予定である。

**Q9:** 株価 EV 倍率および 20 年の販売提携契約の対価はどのように評価しているか。

**A9:** 現時点では買収契約等は未締結のため、回答を差し控えさせていただく。

**Q10:** 本買収に伴う EV への影響について教えてほしい。他のオーストラリアの会社では、買収後に EV の再評価を行った結果、EV が当初の半分程度になったケースもあるが、本買収はどの程度を見込んでいるのか。

**A10:** 買収契約等の締結に至っているものではなく、現時点では詳細な回答を差し控える。ただし、本件買収の妥当性については十分に時間をかけて精査しており、相応の業績貢献はあるものと見込んでいる。詳細は買収契約等締結後にご説明させていただきます。

#### <海外生命保険事業>

**Q11:** プロティティブの生保事業が赤字となっている。インフルエンザの影響とあるが、一時的と捉えてよいか。通期業績への影響はどのように考えているか。

**A11:** 第1四半期はインフルエンザの影響で死亡率が悪化しているが、プロテクティブの場合、契約1件あたりの保険金額が大きなものがあり、日本の事業よりも一時的要因によって保険金の支払いがぶれやすいという特徴を有している。

**Q12:** プロテクティブについて、インフルエンザの流行に伴う保険金支払の増加とあるが、パンデミックが起こったということなのか。また、パンデミックに対するリスクマネジメントは実施しているのか。

**A12:** 前年同期比では保険金支払が増加しているが、パンデミックと言うほどの状況ではない。なお、パンデミックが発生した場合のストレステストは実施しており、たとえ発生した場合にもプロテクティブの健全性が毀損されるほどの影響がないことは確認している。

**Q13:** TAL について、収益の金利に対する感応度が逆転したというのはどういうことか教えてほしい。

**A13:** 毎期始に実施している保険負債見積りの見直しにより保険負債のデュレーションが変化したため、収益の金利に対する感応度が逆転し、金利が下がると税引後利益が低下するという関係になったものである。

#### <ヨーロピアン・エンベデッド・バリュー (EEV) >

**Q14:** 第1四半期における新契約価値の概算値を教えてほしい。

**A14:** マルチブランド・マルチチャネルが進展しているため、新契約価値は国内3社合計で見ると見るべきだが、第1四半期では新契約価値の計測を行っていない企業もあるため、具体的な水準についてのコメントは差し控える。

(注) 上記内容については、理解しやすいように、部分的に加筆・修正しています。

#### 【免責事項】

本資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社（以下「当社」という。）は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限らず、「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現が含まれます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。